



小林市立
幸ヶ丘小

こすもす

学校だより
令和2年度第5号

R2. 7. 10発行

ホームページ=<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/1410/htdocs/>

文責：阿南 栄三

7月になりました。新型コロナウイルスの影響で、夏休みが4日間短縮されましたので、夏休みは7月30日（木）からになります。夏休みまでは11日間の登校です。残りの日々を充実させ、これまでの学習面、生活面の締めくくりをしましょう。16日（木）、17日（金）には個人面談が予定されています。ご相談等がありましたら、遠慮なく担任にお話しください。よろしくお願い致します。

いのちの大切さ 宮崎県「いのちの教育週間」、「西諸人権を考える取組」

7月1日～7日は宮崎県「いのちの教育週間」です。また、この週間に合わせて「西諸人権を考える取組」をしています。「人権」とは、人が生まれながらにして持っている「権利」です。もう少し分かりやすくいうと、



宮崎県「いのちを大切にす教育」

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ○ 自分の思ったことを自由に口に出ること | ○ 自分の選んだ宗教を信じること |
| ○ 自由に学ぶこと | ○ 自分の選んだ人と結婚すること |
| ○ 好きな服を着ること、好きな音楽を聴くこと | ○ 病気になったら医療を受けること など。 |

これらはすべて、私たちが持っている「人権」です。これらは憲法で保障され、今の日本では、「あたりまえ」だと思われています。しかしこれらは、ずっと「あたりまえ」だったわけではありません。これらの人権を「あたりまえ」にしたのは、**これらの人権がないために苦しんできた無数の人びとの願いと命をかけた長い年月にわたる努力の結果**なのです。

6月28日（日）の参観日の授業で、各学級で身近な題材（男の子と女の子、笑顔にするには、適切なコミュニケーション）を使って、人権について、親子で考えました。



同じ28日の午後に、「魚のつかみ取り大会」を実施しました。この行事を「いのちの教育」の一環と位置づけ、「捕まえること」も「食べること」も命を育むものとして捉えています。行事の最後に次のような話をしました。『**私たち人間は他の生き物を食べることで、生きています。生かされています。生かされている“いのち”であれば、「いただきます。ごちそうさま。」のあいさつを心を込めてすること。好き嫌い無く食べること。残さずに食べること。これらはとても大切なことなのです。**』



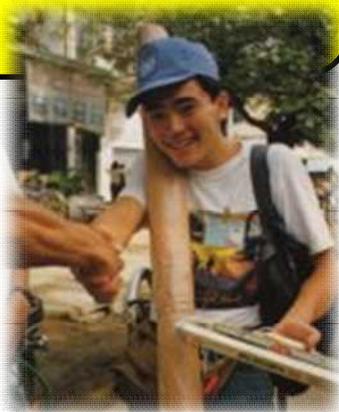
この世の中に、

誰かがやらなければならない事がある時、

僕は、その誰かになりたい。

7月の全校朝会で話した内容です。1993年4月8日にカンボジアで国連ボランティアの一員として選挙の支援をしているときに、武装集団に襲われ亡くなった**中田厚仁（なかた あつひと）**さん（当時25歳）の言葉です。彼の死後、襲撃された地に村が（アツヒト村）、学校（アツ小学校・中学校）ができました。

世界各地で、現地の人々のために頑張っている日本人がたくさんいます。私たちの身近にも、自分ではない、誰かがやっていることで、いろいろなこと（生活、勉強、行事など）が成り立っています。その“誰か”になることで、経験を積むことができ、自分に自信がもてるようになると思います。子どもたちには、その“誰か”になって欲しいと思います。



ありがとうございました。～花、マスクのお礼のメッセージを書きました。～



【幸っ子の様子】 ※ホームページも是非ご覧ください。

【参観日：6月28日】 ～魚のつかみ取り大会～



【宿泊学習（5年生）：7月2～3日】 ～御池青少年自然の家～

